

上峰町文化財調査報告書第46集

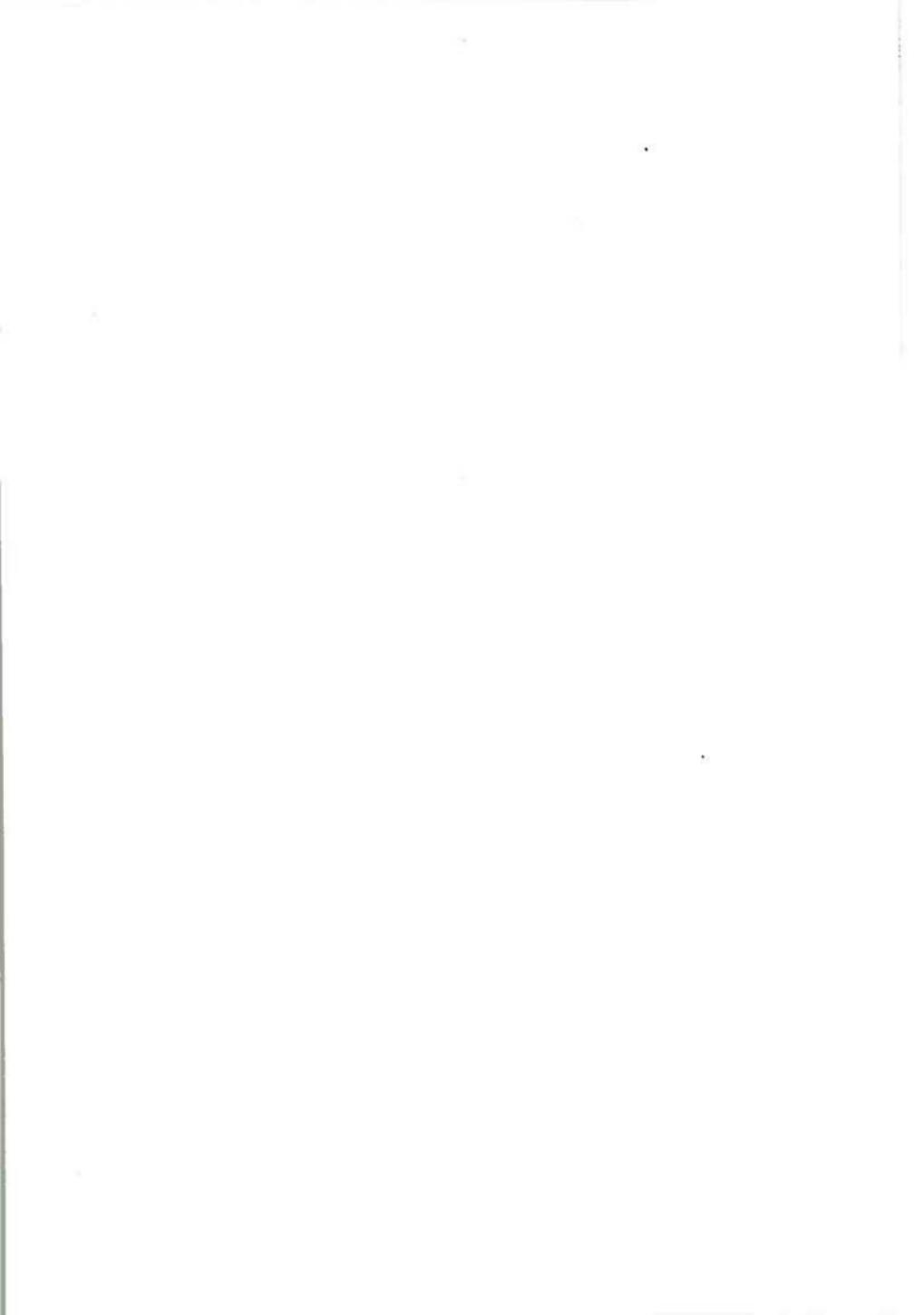
上峰町内遺跡確認調査IX

上峰町内における開発行為に伴う
埋蔵文化財確認調査報告書
—平成28年度—

2018年3月

上峰町教育委員会





上峰町内遺跡確認調査IX

上峰町内における開発行為に伴う
埋蔵文化財確認調査報告書
—平成28年度—



2018年3月

上峰町教育委員会

序

従来、上峰町は「遺跡の宝庫」と言わされてきました。北部の脊振山系、その南麓から派生し南北に延びる洪積世丘陵と谷、さらに有明海へと続く沖積平野と変化に富んだ地形を含む町域には、いたるところに先人たちの暮らしの足跡が刻み込まれています。教育委員会では、こうした人々の暮らしの足跡、歴史的資産を保存活用し、将来へ継承していくために、開発と文化財の保護との調整に努めてまいりました。

近世以来の純農村集落の面影を色濃く残してきた上峰町は、昭和40年代後半から「農工併進のまちづくり」を理念に掲げ、工業団地の整備による大規模工場の誘致、農業基盤整備事業の実施とまちづくりを進めてまいりました。町の中央を国道34号線が東西に横断し、ここから、福岡県久留米市へは県道が通るという恵まれた交通環境に位置しており、佐賀市や鳥栖市、久留米市へも最適な通勤圏にあるところから、近年人口も着実に伸び、ベッドタウンとして発展してまいりました。これに伴い、各種商業施設、事業所等の町内進出も相次ぎ、上峰町は平成元年の町制施行以来、この30余年間で近代的な田園都市へと大きく変貌を遂げました。

本書は、上峰町内の埋蔵文化財の保護と開発との調整を図るために上峰町が平成元年度より国庫補助事業の適用を受け実施してまいりました町内遺跡確認調査の報告書であります。この開発に伴う町内遺跡確認調査の実施によって多くの遺跡が破壊、消滅をまぬかれ保護されました。この報告書を学術的な資料として、また今後の埋蔵文化財保護と開発との調整を図るためにの資料として役立てていただければ幸いです。

なお、この町内遺跡確認調査にあたって、ご指導、ご協力をいただきました佐賀県教育委員会、開発事業主体者をはじめ、関係各位に対し深く感謝申し上げます。

平成30年3月

上峰町教育委員会

教育長職務代理者 時津昌昭

例　　言

1. 本書は、平成元年度から国庫補助事業として、上峰町内で実施してきた町内遺跡確認調査のうち平成28年度に実施した町内遺跡確認調査の報告書である。
2. 本書は、平成29年度の国庫補助事業により、上峰町教育委員会が作成、刊行したものである。
3. 町内遺跡確認調査は、上峰町教育委員会が実施した。
4. 現場での発掘作業は、重機により表土剥ぎを行い、調査員の指示により発掘作業員が精査し、遺構・遺物の有無を確認した。
5. 現場での図面、写真による記録作業は、調査員が行った。
6. 遺構などの現場における写真撮影及び出土遺物の写真撮影は、調査員が行った。
7. 調査後の出土遺物、記録類の簡単な整理作業は、当該年度にそれぞれ実施した。
8. 本書中の挿図・写真図版などの作成作業は、調査員の指示により、整理作業員が行った。
9. 本書の執筆・編集は、伊達有彰が行った。
10. 本報告書に係る町内遺跡確認調査で出土した全ての遺物及び現場で作成した図面・写真・その他の記録類は、上峰町教育委員会で保管している。

凡　　例

1. 「確認調査」・「試掘調査」の用語については、広くは遺跡の範囲内外を基準に「確認調査」・「試掘調査」と区別して取り扱われているが、本書では「確認調査」と統一し表記している。
2. 確認調査番号については、年度ごとに平成をあらわす「H」、年度を表す「数字」、ハイフンの後に一連の番号を付して、調査番号としている。本書中、調査位置図・確認調査一覧表・報文中の調査番号は一致する。

例) 平成28年度に3番目に実施した○○遺跡確認調査 H28-3 ○○遺跡
3. 「調査後の措置」については、本文中の標記は最終結果を記載したが、一覧表中の標記は当該年度末時点での状況を記載している。
4. 確認調査等の結果を受けて実施した本調査については、確認調査報告の節の後に、遺跡名と調査区番号を付して報告する。

例) ○○遺跡本調査 ○○遺跡○区発掘調査
5. 本文・挿図中の方位については、全て座標北を基準としている。
6. 表中の数値に付した記号で、() は推定値を、※は部分値を表す。
7. 先の市町村合併により、上峰町周辺の町村も合併が進み町村名が変更になっている。本書では現在の市町名のあとに() で旧市町村名を記している。

調査組織

平成 28 年度

調査主体 上峰町教育委員会

調査事務局 総括 矢動丸 駿之 上峰町教育委員会 教育長

(～平成 29 年 2 月 21 日)

時津昌昭 上峰町教育委員会 教育長職務代理者

(平成 29 年 2 月 22 日～3 月 10 日)

矢動丸 駿之 上峰町教育委員会 教育長

(平成 29 年 3 月 11 日～3 月 16 日)

時津昌昭 上峰町教育委員会 教育長職務代理者

(平成 29 年 3 月 17 日～)

原田大介 上峰町教育委員会 文化課長

事務主任 原田大介 ■ 文化課長

経費執行 伊達有彩 ■ 文化課文化係

調査組織 調査員 原田大介 ■ 文化課長

伊達有彩 ■ 文化課文化係

調査指導 佐賀県教育委員会

発掘作業参加者

平成 28 年度

編員 千鶴子・大庭始・岡村秀俊・古賀聰夫・辯強正・白土爾・菅原功・杉谷勇・杉谷嘉泰・田中一馬・堤脩次郎・鶴隆二・演富助・宮崎正秋・半田康孝・矢動丸松美・山田富士夫

整理作業参加者

江崎愛子・島美保子(平成 29 年度 整理作業員)

目 次

序

例言・凡例

調査組織・発掘作業参加者・整理作業参加者

I. 上峰町の位置と環境	1
1. 上峰町の位置	1
2. 歴史的環境	1
II. 調査の概要	6
1. 調査に至る経緯	6
2. 調査の方法	6
III. 平成 28 年度の調査	9
H28-1 四本谷遺跡(1)	13
H28-2 寺家遺跡	13
H28-3 三上遺跡(1)	14
H28-4 三上遺跡(2)	14
H28-5 三上遺跡(3)	15
H28-6 楢寺遺跡(1)	15
H28-7 三上遺跡(4)	16
H28-8 一の橋標源集落跡	17
H28-9 坊所五本谷遺跡(1)	17
H28-10 楢寺遺跡(2)	18
H28-11 坊所一本谷遺跡	19
H28-12 米多城跡(1)	20
H28-13 米多城跡(2)	20
H28-14 一本谷遺跡(1)	21
H28-15 三上遺跡(5)	21
H28-16 坊所三本松遺跡(1)	22
H28-17 米多城跡(3)	23
H28-18 坊所三本松遺跡(2)	23
H28-19 四本谷遺跡(2)	24
H28-20 坊所二本松遺跡	24
H28-21 坊所五本谷遺跡(2)	25
H28-22 周知外東前牟田地区	25
H28-23 西峰遺跡	26
H28-24 三上遺跡(6)	26
H28-25 三上遺跡(7)	27

H28-26 切通遺跡	27
H28-27 三上遺跡(8)	28
H28-28 坊所三本松遺跡(3)	29

挿 図 目 次

Fig. 1 上峰町内主要遺跡及び周辺遺跡 (1/50,000)	2
2 上峰町遺跡地図 (1/50,000)	7
3 平成 28 年度 確認調査地位置図 (1/50,000)	12
4 H28-1 四本谷遺跡(1) (1/5,000)	13
5 H28-2 寺家遺跡 (1/5,000)	13
6 H28-3 三上遺跡(1) (1/5,000)	14
7 H28-4 三上遺跡(2) (1/5,000)	14
8 H28-5 三上遺跡(3) (1/5,000)	15
9 H28-6 櫻寺遺跡(1) (1/5,000)	15
10 H28-6 トレンチ設定図 (1/1,000)	15
11 H28-6 トレンチ略図 (1/200)	16
12 H28-7 三上遺跡(4) (1/5,000)	16
13 H28-8 一の橋環濠集落跡 (1/5,000)	17
14 H28-9 坊所五本谷遺跡(1) (1/5,000)	17
15 H28-10 櫻寺遺跡(2) (1/5,000)	18
16 H28-10 トレンチ設定図 (1/2,000)	18
17 H28-10 トレンチ略図 (1/200)	18
18 H28-11 坊所一本谷遺跡 (1/5,000)	19
19 H28-12 米多城跡(1) (1/5,000)	20
20 H28-13 米多城跡(2) (1/5,000)	20
21 H28-14 一本谷遺跡(1) (1/5,000)	21
22 H28-15 三上遺跡(5) (1/5,000)	21
23 H28-15 トレンチ設定図 (1/1,000)	21
24 H28-15 トレンチ略図 (1/200)	22
25 H28-16 坊所三本松遺跡(1) (1/5,000)	22
26 H28-17 米多城跡(3) (1/5,000)	23
27 H28-18 坊所三本松遺跡(2) (1/5,000)	23
28 H28-19 四本谷遺跡(2) (1/5,000)	24
29 H28-20 坊所二本松遺跡 (1/5,000)	24
30 H28-21 坊所五本谷遺跡(2) (1/5,000)	25
31 H28-22 周知外東前牟田地区 (1/5,000)	25

32	H28-23	西峰遺跡(1/5,000)	26
33	H28-24	三上遺跡(6)(1/5,000)	26
34	H28-25	三上遺跡(7)(1/5,000)	27
35	H28-26	切通遺跡(1/5,000)	27
36	H28-27	三上遺跡(8)(1/5,000)	28
37	H28-27	三上遺跡(8)トレンチ設定図(1/1,200)	28
38	H28-27	三上遺跡(8)トレンチ略図(1/200)	28
39	H28-28	坊所三本松遺跡(3)(1/5,000)	29

表 目 次

Tab. 1	平成28年度町内遺跡確認調査一覧表	10
	報告書抄録	

図 版 目 次

PL. 1	H28-1	四本谷遺跡(1)	13
2	H28-2	寺家遺跡	13
3	H28-3	三上遺跡(1)	14
4	H28-4	三上遺跡(2)	14
5	H28-5	三上遺跡(3)	15
6	H28-6	樫寺遺跡(1) 調査地全景	16
7	H28-6	樫寺遺跡(1) No.1 試掘溝検出状況	16
8	H28-7	三上遺跡(4)	16
9	H28-8	一の橋環濠集落跡	17
10	H28-9	坊所五木谷遺跡(1)	17
11	H28-10	樫寺遺跡(2) 調査地全景	19
12	H28-10	樫寺遺跡(2) No.1 試掘溝	19
13	H28-10	樫寺遺跡(2) No.2 試掘溝断面	19
14	H28-10	樫寺遺跡(2) No.2 試掘溝断面	19
15	H28-11	坊所一本谷遺跡	19
16	H28-12	米多城跡(1)	20
17	H28-13	米多城跡(2)	20
18	H28-14	一本谷遺跡(1)	21
19	H28-15	三上遺跡(5) 調査地全景	22
20	H28-15	三上遺跡(5) No.1 試掘溝	22
21	H28-16	坊所三本松遺跡(1)	22
22	H28-17	米多城跡(3)	23

23	H28-18	坊所三本松遺跡(2)	23
24	H28-19	四本谷遺跡(2)	24
25	H28-20	坊所二本松遺跡	24
26	H28-21	坊所五本谷遺跡(2)	25
27	H28-22	周知外東前半田地区	25
28	H28-23	西峰遺跡	26
29	H28-24	三上遺跡(6)	26
30	H28-25	三上遺跡(7)	27
31	H28-26	切通遺跡	27
32	H28-27	三上遺跡(8) 調査地全景	29
33	H28-27	三上遺跡(8) №3 試掘溝	29
34	H28-27	三上遺跡(8) №10 試掘溝断面	29
35	H28-27	三上遺跡(8) №10 試掘溝断面	29
36	H28-28	坊所三本松遺跡(3)	29

I. 上峰町の位置と環境

1. 上峰町の位置 (Fig. 1)

佐賀県三養基郡上峰町は、佐賀県東部の穀倉地帯である佐賀平野のほぼ中央、三養基郡の西端に位置しており、東部は同郡みやき町（旧中原町・旧北茂安町）と、南部は同郡みやき町（旧三根町）と、西部は神埼郡吉野ヶ里町（旧東脊振村・旧三田川町）と境を接している。また、この神埼郡との境界は、古代以来の三根郡との郡界を踏襲しており、現在も町のほぼ中央を東西に横断する国道34号線付近の旧三田川町と境を接する地域は郡境地区と呼称されている。

鳥栖市から佐賀市大和町（旧佐賀郡大和町）に至る佐賀県東部には、北部に背振山地、その南麓に発達する更新世丘陵、さらに南部には有明海へと続く沖積平野が展開するという、変化に富んだ地形が発達している。なかでも、山麓部から沖積平野部へ移行する部分に発達する更新世丘陵は、山麓部に源を発し有明海へと南流する大小の河川によって浸食され北から南へ延びる舌状を呈した段丘を数多く形成している。そして、これらの段丘は古くから人々の生活の場として利用され、段丘上には数多くの遺跡が分布し、遺跡数、内容ともに県内でも有数の地域となっている。

そのようななか、南北に細長い町域をもつ上峰町においても、北部に山麓部、中央部に更新世丘陵部、南部に沖積平野部と、この佐賀県東部の特徴的な地形が展開しており、とくに中央部に発達する更新世丘陵地域を中心におよぶ遺跡の分布が知られ、古くから「遺跡の宝庫」と呼ばれてきた。

2. 歴史的環境 (Fig. 1)

上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観すると、前述のとおり、山麓部から更新世丘陵部におよぶ一帯が古くから人々の生活の舞台となっており、山麓部及び各段丘上には、現在、遺跡の存在が知られ、県内においてもとくに弥生時代遺跡を中心に遺跡の分布密度が高い地域となっている。沖積地を望む丘陵部のはとんどが、各時代の集落あるいは墓域として占有され、とりわけ、弥生時代以降の遺跡を縄文時代以前の遺跡と比較すると、量的にも、質的にも爆発的に増加、充実する。銅鐸の鋳型を出土した鳥栖市安永田遺跡¹⁾、約400基の甕棺墓が検出されたみやき町（旧中原町）姫方遺跡²⁾、埋納された12本の銅矛を出土したみやき町（旧北茂安町）検見谷遺跡³⁾、甕棺墓から船載鏡を出土した吉野ヶ里町（旧東脊振村）三津永田遺跡⁴⁾、近年の工業団地建設に先立つ調査で貴重な遺構、遺物が検出された神埼市（旧神崎町）・吉野ヶ里町（旧三田川町・旧東脊振村）に跨る吉野ヶ里遺跡⁵⁾など多くの著名な集落遺跡、墳墓群が知られ弥生時代の「クニ」あるいは「ムラ」単位の集団の存在が想定されるに至っている。このようななか、南北約12km、東西約3kmと南北に細長い町域を持つ本町においても同様に、町の北部から中央部を占める更新世段丘上に弥生時代を中心とする各時代の遺跡が分布している。

先土器時代の遺跡についてみると、各段丘で層序が異なる本地域においては本格的な調査がなされていないのが現状で、断片的な遺物の出土、採取にとどまっている。町内では、平成4年度の県営農業基盤整備事業に伴う八幡遺跡の調査において縄石刃1点とこの時期のものと考えられる石器類が少量出土しているが、これが発掘調査における主な出土例である⁶⁾。周辺地域では、吉野ヶ里町（旧三田川町）との境界に位置する二家山丘陵の吉野ヶ里町（旧三田川町）側からナイフ形石器の採取例が報告されている⁷⁾。また、平成5年度の県営農業基盤整備事業に伴う八幡遺跡下層における阿蘇4火碎流跡と埋没林に係る調査において、先土器時代の年代示標となっている姶良-Tn火山灰 (AT) の含有ピークが、通常の丘陵上の埋蔵文化財調査において遺構検出面としている「地山」



上峰町	12	坂六本谷道跡	24	坊所號跡	47	西原水道跡	50	旧神船町
1 獅の闘古墳群	13	埴土里跡	25	櫛今森跡	36	山田鹿子櫛出土地	51	志波原六木松古墳群
2 銀西山城	14	八森道跡	26	杉木道跡	37	山田古墳群	52	伊勢深倉方塚円墳
3 二本柳古墳群	15	二星山道跡	27	坊原二木松道跡	38	大原古墳	53	馬郡道跡
4 純西山西麓古墳群	16	五木谷道跡	28	坊原三木松道跡	39	八幡社遺跡	54	田裏堂新村
5 湯川本谷道跡	17	船石道跡	29	塙の船石寺跡	40	望原道跡	55	東尾瀬利出土道跡
6 里形原古墳群	18	船石南道跡	30	西前本田道跡	41	殿方道跡	56	西石動古墳群
7 谷津古墳群	19	切込道跡	31	米多城跡	42	殿方前方後円墳	57	戰場ヶ谷道跡
8 塚三木松道跡	20	一本谷道跡	32	前原前城跡	43	殿方原道跡	58	三津木前道跡
9 齐舞古墳群	21	坊所一本谷道跡	33	加茂高森集落跡	44	ドンドリ落葉跡	59	西石動道跡
10 新立古墳群	22	上のびゅう原古墳	34	江瀬道跡	45	町南道跡	60	松原道跡
11 麟形原道跡	23	日連原古墳	35	一ノ森南撫毛落跡	46	天神道跡	61	半上原今跡

Fig. 1 上峰町内主要遺跡及び周辺遺跡 (1/50,000)

の表層を構成する黄褐色風積土層の最上部付近、アカホヤ含有層のやや下部にて検出されている⁹⁾。

縄文時代になると、みやき町（旧中原町）香田遺跡⁹⁾や吉野ヶ里町（旧東脊振村）戦場ヶ谷遺跡¹⁰⁾などが出現する。町内においても、これまでにも町北部の丘陵部から土器や石器が、耕作や先覚者の遺跡の表面観察などによって断片的に出土、採取されていたが、近年の上峰北部農業基盤整備事業に伴う発掘調査の結果、平成元年度の船石遺跡11区¹¹⁾、平成2年度から5年度にわたり実施した八藤丘陵の調査¹²⁾において、遺構や遺物がまとまって検出されており、今後の調査例の増加が期待されている。

弥生時代になると、遺跡の数や規模、その内容が飛躍的に増加、充実することは先に触れたが、早くから『魏志倭人伝』の「弥奴国」の所在地を佐賀平野東部、なかでも三義郡西部の旧三根郡にあてる論考が行われてきたことは周知のことである。旧三根郡に所属する上峰町においても、丘陵部のほとんどにこの時期の遺跡が展開している。しかし、町の南部や中央部の米多地区、坊所地区的丘陵部は、中世以降集落として発達し、早くから宅地化が進み、本格的な発掘調査の例に乏しく、わずかに再開発に伴い部分的に小規模の発掘調査が行われているに過ぎず、遺跡の詳細について把握できていないのが現状である。これに対して、町北部の大字堤地区では、近年の工業団地建設や農業基盤整備事業など大型開発に伴い広範囲かつ大規模な発掘調査が実施され、各遺跡から当時の社会の様子を知るうえで貴重な資料が得られている。町内の代表的な遺跡としては、甕棺墓から細形銅劍や貝貝を出土した切通遺跡¹³⁾、吉野ヶ里町（旧東脊振村・旧三田川町）に跨る、佐賀県東部中核工業団地の建設に伴い甕棺墓、土壙墓など約300基が調査され、舶載鏡、小型微製鏡をはじめとする貴重な副葬品を出土した二塚山遺跡¹⁴⁾、佐賀県住宅供給公社の宅地造成に伴う調査で一集団の集落部分の全容が明らかになった一本谷遺跡¹⁵⁾、地区運動公園整備に伴う調査で5世紀代の古墳とともに支石墓はじめ多数の甕棺墓が検出された船石遺跡¹⁶⁾などが知られている。また、近年の上峰北部農業基盤整備事業に伴う調査においても、船石遺跡¹⁷⁾、船石南遺跡¹⁸⁾、八藤遺跡¹⁹⁾から住居址や甕棺墓などが多数検出されている。

古墳時代になると、この地域にも首長墓が出現する。初頭の時期にはみやき町（旧中原町）姫方原遺跡²⁰⁾、上峰町五本谷遺跡²¹⁾などにおいて方形周溝墓が當まれ、やがて中期にかけて鳥栖市から佐賀市大和町に至る山麓や丘陵部に大型の前方後円墳が出現する。鳥栖市劍原古墳²²⁾、みやき町（旧中原町）姫方古墳²³⁾、上峰町西南部から吉野ヶ里町（旧三田川町）に跨る目達原古墳群²⁴⁾、神埼市（旧神埼町）伊勢塚古墳²⁵⁾、佐賀市鷹子塚古墳²⁶⁾、佐賀市大和町船塚古墳²⁷⁾など佐賀県東部の代表的な古墳が築かれようになる。さらに後期になると、現在長崎自動車道や県道佐賀川久保・鳥栖線が通る山麓部から丘陵部に跨る一帯に小円墳を中心とした古墳が多数築かれ、それぞれが山麓部の尾根や谷あるいは丘陵を単位として後期古墳群を形成している。

後の『肥前風土記』にみえる三根郡米多郷に属する当時の上峰町一帯は、『古事記』、『国造本紀』などの記事によれば応神天皇の曾孫にあたる「都紀女加」なる人物が初代の米多国造として中央より下向した地域に比定され、その中心は、町南西部の米多地区から吉野ヶ里町（旧三田川町）東部の目達原一帯にあったと推定されている。町内の主要な古墳としては、都紀女加を始祖とする米多国造一族の墳墓として、5世紀代後半に形成されたと考えられる上のびゅう塚（現在、陵墓「都紀女加王墓」宮内庁管轄）はじめ無名塚、大塚、古稲荷塚、稻荷塚などの前方後円墳ほかからなる目達原古墳群²⁸⁾が知られていたが、戦前の陸軍飛行場建設の際に、唯一上のびゅう塚を残し他の古墳は簡単な発掘調査の後破壊されている。また町の北側の古墳としては、同じく5世紀代の古墳で、蛇行状鉄劍、蛇行状鉄矛を出土した船石天神宮境内の船石古墳1～3号墳²⁹⁾が知られている。古墳時代後期の古墳としては、町北部の鎮西山の周辺山麓部から高位段丘上にかけて、小円墳を主体とする谷渡、青柳、新立、奥の院、鎮西山南墓、屋形原などの古墳群が点在している。

一方、この時期の集落は、吉野ヶ里町（旧三田川町）下中杖遺跡³⁰⁾、吉野ヶ里町（旧東脊振村）下石動遺跡³¹⁾などが知られているが、弥生時代集落に比べ、遺跡そのものの数も少なく、調査例も少なくいまだに実態が明らかになっていないのが現状である。町内の遺跡をみても、当時の政治的中心であったと考えられる町南部の米多地区周辺における本格的な発掘調査の例がなく、今後の大きな課題といえる。

奈良・平安時代遺跡としては、吉野ヶ里町（旧三田川町）下中杖遺跡、吉野ヶ里町（旧東脊振村）辛上魔寺跡³²⁾、靈仙寺跡³³⁾などが著名であるが、この時期の遺跡についてもまとまった調査例が少なく、実態はあまり解明されていない。当時の遺構として大規模なものは、佐賀平野に敷かれた条里制の遺構が上げられ、早くから地名などから条里的復元が試みられ、現在ではほとんどの条里が復元されている。また、大宰府から肥前国府へ通じる官道の調査も進み、近年部分的な発掘調査が行われている。

町内では堤土里跡³⁴⁾や塔の廬庵寺跡³⁵⁾などが奈良時代の遺跡として戦前から注目されている。町北部の堤地区の八藤丘陵と二塚山丘陵の間の谷底平野を遮断する形で築かれた堤土里跡は、版築工法により築かれた福岡県の水城に似た施設、「小水城」で、その築造目的が、大宰府の防衛施設であるとする説、灌漑用水確保のための溜池の堤防であるとする説など議論がなされたが、平成2年度からの土里の東方に接する八藤丘陵の調査において、土里東端から一直線に八藤丘陵を東方へ横断する道路側溝状の遺構が検出され³⁶⁾、その性格付けにあらたに古代道の存在が想定されることとなった。また町南西部を占める目達原丘陵の南端部に位置する塔の廬庵寺跡は、百濟系車弁軒丸瓦が発見され、戦前までは基壇、礎石の存在が知られていた奈良時代中期の寺院址で、日達原古墳群を営んだ米多国造一族の流れをくむ三根郡の郡司層が建立したものと推定されている。また、町内における奈良・平安時代の集落は、農業基盤整備事業に伴う調査や近年の大規模小売店舗建設に先立つ坊所一本谷遺跡³⁷⁾の調査などでまとった調査がなされたのみで、今後の調査例の増加が期待される。

中世になると、北部の山麓部の小峰に山城が築かれ、沖積平野部には環濠を伴う平城や集落が出現する。町内の中世城館址としては、北部の鎮西山山城、上峰町中央部の平野を臨む丘陵部に坊所城跡、町南部の平野部には米多城跡、前半田城跡、江迎城跡、一の橋環濠集落、加茂環濠集落などが知られていた³⁸⁾。しかし、昭和40年代後半からの園場整備事業によって、これら平野部の遺構は、原状がほとんど失われてしまった。そのようななかで、町の親水公園として整備された江迎城跡では13世紀後半代の龍泉窯系の青磁碗が建物跡とともに出土し、また、坊所城跡では16世紀後半代の青花がそれぞれ出土している³⁹⁾。

以上、上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観したが、まさにこの地域は遺跡の密度、その内容ともに高く、遺跡の宝庫と呼ぶにふさわしい地域といえる。

註

- 1) 藤原慎博・石橋新次『袖北遺跡群跡区確認調査第3年次概要報告書』島柄市文化財調査報告書第30集 島柄市教育委員会 1980
- 2) 木下巧・天本洋一『姫方遺跡』佐賀県文化財調査報告書第30集 佐賀県教育委員会 1974
- 3) 七田忠昭『猿見谷遺跡』北茂安町文化財調査報告書第2集 北茂安町教育委員会 1986
- 4) 金闇丈夫・坪井清足・金闇惣『佐賀県三津永田遺跡』『日本農耕文化の生成』日本考古学協会 1961
- 5) 七田忠昭他『吉野ヶ里』佐賀県文化財調査報告書第113集 佐賀県教育委員会 1992
- 6) 原田大介『八藤遺跡Ⅲ』上峰町文化財調査報告書第16集 上峰町教育委員会 1999
- 7) 七田忠志『原始』『上峰村史』上峰村 1979
- 8) 下山正一・西田民雄『Ⅱ. 佐賀県上峰町周辺の地形と地質』『佐賀平野の阿蘇4火成流と埋没林』上峰町文化財調査報告書第11集 上峰町教育委員会 1994
- 9) 高瀬哲郎・堀安信・久保伸洋『香田遺跡』『香田遺跡』九州横断自動車道関係施設文化財発掘調査報告書2 佐賀県文化

財調査報告書第57集 佐賀県教育委員会 1981

- 10) 七田忠志 「佐賀県鞍場ヶ谷遺跡」『史前学雑誌』 6-2・4 1934
- 11) 原田大介 『船石遺跡V』 上峰町文化財調査報告書第12集 上峰町教育委員会 1986
- 12) 原田大介 『八幡遺跡II・堤土塁跡II』 上峰町文化財調査報告書第14集 上峰町教育委員会 1998
前出(6)
- 13) 金間丈夫・金間惣一・原口正三 「佐賀県切通遺跡」『日本農耕文化の生成』 日本考古学協会 1961
- 14) 高島忠平・七田忠昭他 「二塚山遺跡」「二塚山」 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 15) 七田忠昭 『一本谷遺跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1983
- 16) 七田忠昭 『船石遺跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1983
- 17) 鶴田浩二・原田大介 『船石遺跡II 図録編』 上峰村文化財調査報告書第6集 上峰村教育委員会 1988
鶴田浩二・原田大介 『船石遺跡II本文編』 上峰村文化財調査報告書第7集 上峰村教育委員会 1989
- 原田大介 『船石遺跡III』 上峰町文化財調査報告書第8集 上峰町教育委員会 1990
- 原田大介 『船石遺跡IV』 上峰町文化財調査報告書第9集 上峰町教育委員会 1991
- 18) 原田大介 『船石南遺跡I』 上峰町文化財調査報告書第21集 上峰町教育委員会 2002
- 原田大介 『船石南遺跡II』 上峰町文化財調査報告書第22集 上峰町教育委員会 2002
- 19) 原田大介 『八幡遺跡I』 上峰町文化財調査報告書第13集 上峰町教育委員会 1997
- 20) 木下功他 「般方原遺跡」 佐賀県文化財調査報告書第33集 佐賀県教育委員会 1976
- 21) 木下巧・七田忠昭 「五本谷遺跡」「二塚山」 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 22) 石橋新次 『劍塚前方後円墳』 烏栖市文化財調査報告書第22集 烏栖市教育委員会 1984
- 23) 前出(2)
- 24) 松尾植作 「日進原古墳群調査報告」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第9輯 佐賀県教育委員会 1950
- 25) 木下治 『古代國家の形成』『佐賀県史』 佐賀県 1968
- 26) 木下治編 『鏡子塚』 佐賀市教育委員会 1976
- 27) 松尾植作 『佐賀県考古大観』 祐徳博物館 1959
- 28) 前出(24)
- 29) 前出(16)
- 30) 七田忠昭・高山久美子・西田和己 『下中杖遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第54集 佐賀県教育委員会 1980
- 31) 高齋哲郎他 「下石動遺跡」「下石動遺跡」 九州横断自動車道関係施設文化財発掘調査報告書(6) 佐賀県文化財調査報告書第86集 佐賀県教育委員会 1987
- 32) 松尾植作 「東脊振村辛上鹿寺跡の調査」 『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第5輯 佐賀県 1936
- 33) 田平徳栄他 「雲仙寺跡」 東脊振村文化財調査報告書第4集 東脊振村教育委員会 1980
- 34) 高島忠平・杠一義 「堤土塁跡」 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1978
- 35) 松尾植作 「塔の塚廢寺址」 『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第7輯 佐賀県 1940
- 36) 前出(12)
原田大介 『八幡遺跡III』 上峰町文化財調査報告書第16集 上峰町教育委員会 1999
- 37) 平成5、6年度、上峰町教育委員会調査、整理中
- 38) 米倉二郎 「中世」「上峰村史」 上峰村 1979
- 39) 原田大介 『坊所城跡』 上峰町文化財調査報告書第10集 上峰町教育委員会 1992

II. 調査の概要

1. 調査に至る経緯

上峰町教育委員会では、平成元年度より、国庫補助事業の適用を受け、埋蔵文化財保護と開発との調整を図るために開発行為に伴い町内遺跡について事前の確認調査を実施してきた。民間あるいは公共機関等が主体となって実施される町内における各種開発行為について事前に協議を行い、周知の埋蔵文化財包蔵地の内外にかかわらず、これまでに埋蔵文化財発掘調査歴がない土地については、開発面積や工法等の制約がない限り、開発主体者等に事前の確認調査の実施にむけた協力を要請している。

2. 調査の方法

確認調査の方法は、開発予定地に面積的、地形的な制約がない場合、原則として $10m \times 3m$ の試掘溝により地下の遺構・遺物の有無を確認することとしている。図上で開発予定範囲全体に $10m$ のメッシュを組み、このメッシュに $10m \times 3m$ の試掘溝を一マスおきに市松模様状に設定し、試掘溝の配置計画を作成している。この試掘溝配置計画をもとに現地で試掘溝を設定し、確認調査を実施している。

また、開発面積に対する試掘面積の割合は、事前に図上で試掘溝を設定する時点ではおおむね開発面積の10%を目途としているものの、実際の調査では現地の種々の制約により、試掘溝の規模、配置等は臨機応変な対応を採ることも多く、試掘面積を縮小せざるを得ない場合も少なくはない。

各試掘溝の掘削については、遺構検出面までの掘削には可能な限り重機を使用しているが、重機が使用できない場合、包含層や遺構の掘り下げなどそれ以上の精査が必要な場合などは作業員の人力により掘削を行っている。

試掘の結果、遺構などが検出された試掘溝については、適宜、遺構配置等の略測を行い、縮尺 $1/100$ 程度の平面図、縮尺 $1/20$ 程度の土層断面図を作成し、フィルムカメラ・デジタルカメラによる写真撮影を行い記録としている。作業終了後は、原則として試掘溝は埋め戻しを行い原状への復旧を図っている。

また、確認調査の結果、開発予定地内から遺構や遺物が検出された場合で、かつ、調査原因が個人専用住宅の建設、個人による自己所有農地の改良など、遺跡の記録保存等に係る経費について、これを開発主体者に求めることが困難であると認められる場合は、本補助事業の予算の範囲内において、検出された地下の埋蔵文化財に工事の影響が及ぶ範囲について記録保存を目的とした必要最小限の本調査を実施することとしている。

上峰町全図

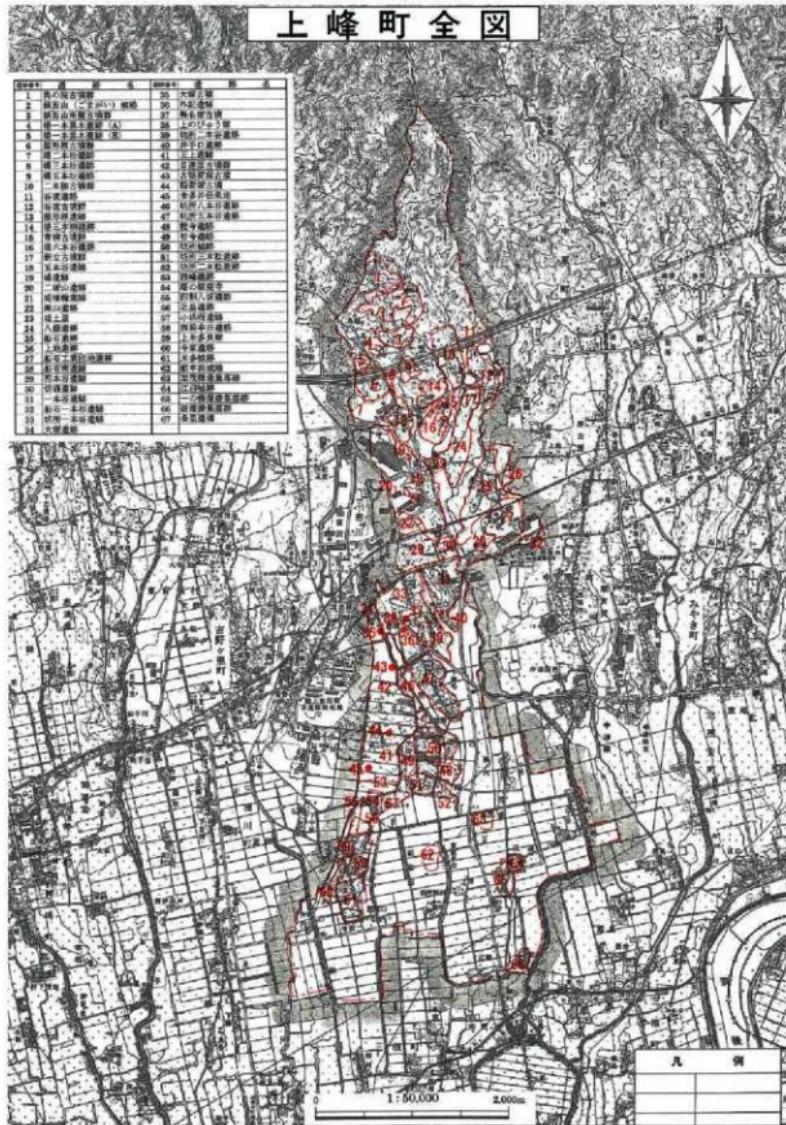


Fig. 2 上峰町遺跡地図 (1/50,000)

III. 平成28年度の調査

Tab.1 平成28年度 町内遺跡確認調査一覧表

No.	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m ²)	調査面積(m ²)	調査調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	西本谷遺跡(1)	上峰町大字坂字四本谷 1903番224	個人	個人専用住宅建設工事	293	32	平成28年4月28日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
2	寺家遺跡	上峰町大字前半田字館 1376番1	個人	個人専用住宅建設工事	587	40	平成28年5月11日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
3	三上遺跡(1)	上峰町大字坊所字西峰 2937番1	株式会社山崎不動産	分譲宅地造成工事	907	30	平成28年5月12日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
4	三上遺跡(2)	上峰町大字坊所字西峰 2772番1	有限公司東山ターミナルナンス	分譲宅地造成工事	960	25	平成28年5月17日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
5	三上遺跡(3)	上峰町大字坊所字三上 3076番2	個人	個人専用住宅建設工事	264	32	平成28年5月17日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
6	権守遺跡(1)	上峰町大字坊所字権寺 515番19	個人	埋蔵文化財の有無確認	394	35	平成28年5月18日	現状に象徴西側で ビット、土壌を検出した。		
7	三上遺跡(4)	上峰町大字坊所字三上 3076番1	個人	個人専用住宅建設工事	253	28	平成28年5月23日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
8	一の橋塚遺跡	上峰町大字江迎字一本松 572番	個人	車庫建設工事	135	9	平成28年6月1日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事中止	
9	坊所五本谷遺跡(1)	上峰町大字坊所字五本谷 1834番1 1836番1	株式会社不動産賃貸センター	分譲宅地造成工事	1,513	90	平成28年6月1日 平成28年6月2日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
10	権寺遺跡(2)	上峰町大字坊所字権寺 602番 597番1 599番1の一部	有限公司 東山ターミナルナンス	分譲宅地造成工事	2,984	270	平成28年6月21日 平成28年6月26日 平成28年6月27日	全面で弥生時代から近 世までのビット、土壌、礫 砾、窓穴建築等を確認 した。弥生土器、土師 器、黒曜石を検出した。	平成28年度8月 より本調査実施。	
11	坊所一本谷遺跡	上峰町大字坊所字一本谷 2514番52の一部	有限会社ブルーバイン	店舗建設工事	836	16	平成28年7月21日	遺構・遺物は検出され なかった。	工事実施済	
12	米多城跡(1)	上峰町大字前半田字姥井鶴 596番1の一部	個人	個人専用住宅建設工事	512	15	平成28年7月29日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施済	
13	米多城跡(2)	上峰町大字前半田字館 695番1 696番	個人	個人専用住宅建設工事	778	17	平成28年7月29日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施済	
14	一本谷遺跡(1)	上峰町大字坊所字一本谷 2577番72	個人	個人専用住宅建設工事	268	14	平成28年8月30日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施済	
15	三上遺跡(5)	上峰町大字坊所字西峰 2805番1 2806番1	有限公司シティ開発	分譲宅地造成工事	954	82	平成28年8月31日	ビット、土壌、溝跡等 を検出した。	盛土保存をして 工事実施	
16	坊所三本松遺跡(1)	上峰町大字坊所字三本松 875番7 875番1	個人	個人専用住宅建設工事	320	15	平成28年8月31日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施済	
17	米多城跡(3)	上峰町大字前半田字姥井鶴 695番1	個人	個人専用住宅建設工事	338	14	平成28年9月16日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施済	
18	坊所三本松遺跡(2)	上峰町大字坊所字三本松 875番6	個人	個人専用住宅建設工事	250	12	平成28年10月26日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施済	

Tab. 1 平成28年度 町内遺跡確認調査一覧表

Tab. 1 平成28年度 司内遺跡調査一覧表

No	遺跡名	所在地	原 因 者	事業内容	工事面積(m ²)	調査面積(m ²)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
19	四本谷遺跡(2)	上峰町大字堤字西本谷 1903番286	個人	個人専用住宅建設工事	412	14	平成28年10月31日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
20	坊所二本松遺跡	上峰町大字坊所字二本松 334番2 334番4 334番10	有限会社シティ開発	埋蔵文化財の有無確認	516	53	平成28年11月1日	遺構・遺物は検出されなかった。		
21	坊所五本谷遺跡(2)	上峰町大字坊所字五本谷 1830番3	株式会社アーネストワン	建売住宅建設工事	502	24	平成28年11月20日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
22	周知外東前牟田地区	上峰町大字前牟田字東前牟田 201番1	合同会社Spec	駐車場用地造成工事	527	14	平成28年11月20日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
23	西峰遺跡	上峰町大字坊所字西峰 2867番	個人	個人専用住宅建設工事	381	40	平成29年1月10日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
24	三上遺跡(6)	上峰町大字坊所字三上 3048番1	個人	個人専用住宅建設工事	258	26	平成29年1月31日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
25	三上遺跡(7)	上峰町大字坊所字西峰 2862番14	個人	個人専用住宅建設工事	456	12	平成29年2月7日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
26	切通遺跡	上峰町大字堤字四本谷 1903番194	一建設株式会社	建売住宅建設工事	241	12	平成29年3月1日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
27	三上遺跡(8)	上峰町大字坊所字三上 3214番1 3215番1 3216番1 3216番2 3217番1	株式会社C&C	分譲宅地造成工事	2,826	320	平成29年3月14日 平成29年3月15日 平成29年3月16日 平成29年3月17日	全面で壁・土壌・溝跡等を確認した。	側溝部分、上下水道施設部分について立会調査を実施。	
28	坊所三本松遺跡(3)	上峰町大字坊所字三本松 875番8	個人	個人専用住宅建設工事	231	13	平成29年3月24日	遺構・遺物は検出されなかった。	工事実施済	
合 计					18,900	1,304				

上峰町全図

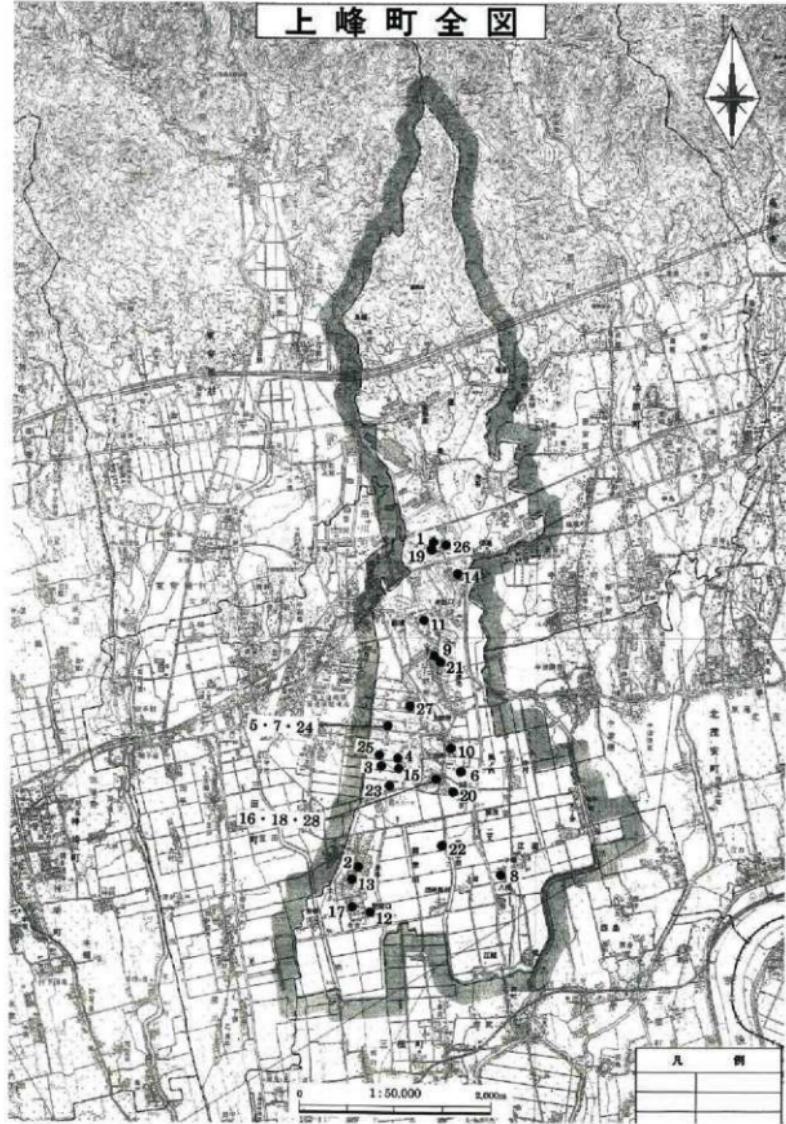


Fig. 3 平成28年度 確認調査位置図 (1/50,000)

H 28-1

遺跡名：四本谷遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字西峰1903番224

工事内容：個人住宅建設工事

工事面積：298m²

調査面積：32m²

調査時期：平成28年4月28日

立地と環境： 四本谷遺跡は、本町中北部、現切通集落西方、二塚山丘陵の南部、標高 20m～38m 付近に位置する弥生時代の墳墓遺跡である。

調査対象区域は井手口丘陵の北部、標高 25m 付近に位置しており、これまで空き地となっていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 4 四本谷遺跡（1）(1/5,000)



PL. 1 調査地全景

H 28-2

遺跡名：寺家遺跡

調査地：上峰町大字前半田字館1376番1

工事内容：個人住宅建設工事

工事面積：587m²

調査面積：40m²

調査時期：平成28年5月11日

立地と環境： 寺家遺跡は、本町の中央部から南西部にかけてのびる目達原丘陵の南部、現寺家一集落の標高 4m 付近に位置する弥生時代の集落跡である。

調査対象区域は標高 4m 付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 5 寺家遺跡 (1/5,000)



PL. 2 調査地全景

H 28-3

遺跡名：三上遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字西峰2937番1

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：907m²

調査面積：30m²

調査時期：平成28年5月12日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約8～16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は目達原丘陵の中央部、標高9m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 6 三上遺跡(1) (1/5,000)



PL. 3 調査地全景

H 28-4

遺跡名：三上遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字西峰2772番1

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：960m²

調査面積：25m²

調査時期：平成28年5月17日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約8～16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は目達原丘陵の中央部、標高9m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 7 三上遺跡(2) (1/5,000)



PL. 4 調査地全景

H 28-5

遺跡名：三上遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字三上3076番2

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：264m²

調査面積：32m²

調査時期：平成28年5月17日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町日達原付近から木町多集落付近へ延びる日達原丘陵の中央部、標高約8~16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は日達原丘陵の中央部、標高9m付近に位置しており、これまで畠として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 8 三上遺跡(3) (1/5,000)



PL. 5 No.1試掘溝

H 28-6

遺跡名：樺寺遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字樺寺515番19

工事内容：埋蔵文化財の有無確認

工事面積：394m²

調査面積：35m²

調査時期：平成28年5月18日

立地と環境： 樺寺遺跡は、上峰町大字坊所字樺寺一帯を占有する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡で、吉野ヶ里町日達原付近から本町坊所地区へ延びる坊所丘陵の中央部、標高約9m~11m付近に位置している。

調査対象区域は坊所丘陵の東端部、標高6m付近に位置しており、これまで空き地となっていた。

遺構と遺物：調査対象地西側でピット、土壤を検出した。

調査後措置：埋蔵文化財有り。



Fig. 9 樺寺遺跡(1) (1/5,000)



Fig. 10 トレンチ設定図 (1/1,000)

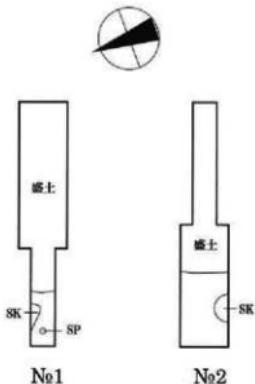


Fig. 11 トレンチ略図(1/200)

H 28-7

遺跡名：三上遺跡(4)

調査地：上峰町大字坊所字三上3076番1

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：253m²

調査面積：28m²

調査時期：平成28年5月23日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約8~16m付近に広がる绳文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は目達原丘陵の中央部、標高9m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



PL. 6 調査地全景



PL. 7 №1試掘溝遺構検出状況



Fig. 12 三上遺跡(4) (1/5,000)



PL. 8 №2試掘溝

H 28-8

遺跡名：一の橋環濠集落跡

調査地：上峰町大字江迎字一本松572番

工事内容：車庫建設工事

工事面積：135m²

調査面積：9m²

調査時期：平成28年6月1日

立地と環境： 一の橋環濠集落跡は、上峰町大字江迎字一本松に所在する集落跡で、町の南東部江迎地区の沖積地標高4m付近に位置している。

今回の調査対象区域は、標高4m付近に位置しており、これまで畑地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事中止



Fig. 13 一の橋環濠集落跡 (1/5,000)



PL. 9 調査地全景

H 28-9

遺跡名：坊所五本谷遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字五本谷1834番1・1836番1

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：1,513m²

調査面積：90m²

調査時期：平成28年6月1日・2日

立地と環境： 坊所五本谷遺跡は本町郡境集落付近から下津毛集落付近へ延びる下津毛丘陵の南部、標高約7~16m付近に広がる弥生、古墳時代の集落および墳墓遺跡である。

調査対象区域はこの下津毛丘陵の中部、標高15m付近に位置しており、これまで空き地であった。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 14 坊所五本谷遺跡(1) (1/5,000)



PL. 10 №3試掘溝

H 28-10

遺跡名：権寺遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字権寺602番・597番1・599番1

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：2,984m² 調査面積：270m²

調査時期：平成28年6月21日・26日・27日

立地と環境： 権寺遺跡は、上峰町大字坊所字権寺一帯を占有する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡で、吉野ヶ里町目達原付近から本町坊所地区へ延びる坊所丘陵の中央部、標高約9m～11m付近に位置している。

調査対象区域は坊所丘陵の東端部、標高10m付近に位置しており、これまで空き地となっていた。

遺構と遺物：全面で弥生時代から近世までのピット、土壙、溝跡、竪穴建物等を確認した。弥生土器、土師器、黒曜石を検出した。

調査後措置：本調査実施



Fig. 15 権寺遺跡(2) (1/5,000)

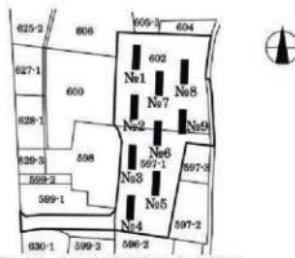


Fig. 16 トレンチ設定図 (1/2,000)

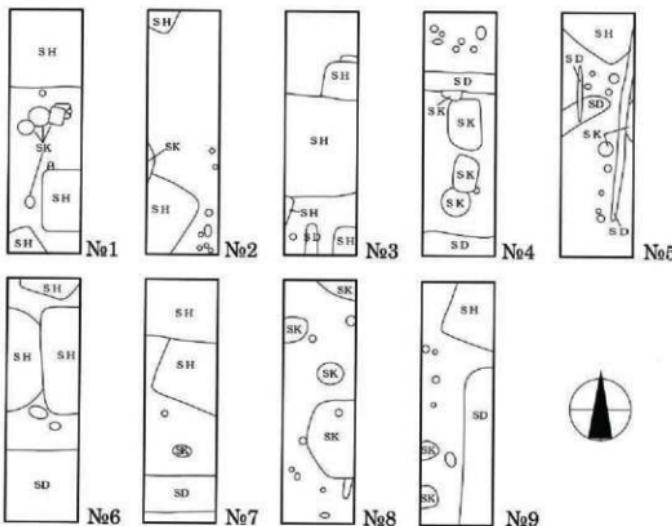


Fig. 17 トレンチ略図(1/200)



PL. 11 調査地全景



PL. 12 №1試掘溝



PL. 13 №2試掘溝



PL. 14 №2試掘溝断面

H 28-11

遺跡名：坊所一本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字一本谷2514番52の一部

工事内容：店舗建設工事

工事面積：836m²

調査面積：16m²

調査時期：平成28年7月21日

立地と環境：坊所一本谷遺跡は、本町堤地区付近か

ら井手口住宅地区付近へ延びる井手口西
丘陵の北西部、標高20m付近に広がる弥
生時代の集落遺跡である。

調査対象区域は、この下津毛丘陵の北
部、標高21m付近に位置しており、これ
まで駐車場として利用されていた。

調査後措置：工事実施



Fig. 18 坊所一本谷遺跡 (1/5,000)



PL. 15 調査地全景

H 28-12

遺跡名：米多城跡(1)

調査地：上峰町大字前半田字総井鶴596番1の一部

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：512m²

調査面積：15m²

調査時期：平成28年7月29日

立地と環境： 米多城跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵南端が沖積地に没する下米多・寺家一・寺家二集落一帯の標高約4m付近に所在する中世の城館跡である。

調査対象区域は現寺家一集落内の沖積地標高3.5m付近に位置しており、畑地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 19 米多城跡(1) (1/5,000)



PL. 16 調査地全景

H 28-13

遺跡名：米多城跡(2)

調査地：上峰町大字前半田字館695番1・696番

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：778m²

調査面積：17m²

調査時期：平成28年7月29日

立地と環境： 米多城跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵南端が沖積地に没する下米多・寺家一・寺家二集落一帯の標高約4m付近に所在する中世の城館跡である。

調査対象区域は現寺家一集落内の沖積地標高3.5m付近に位置しており、畑地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 20 米多城跡(2) (1/5,000)



PL. 17 調査地全景

H 28-14

遺跡名：一本谷遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字一本谷2577番72

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：268m²

調査面積：14m²

調査時期：平成28年8月30日

立地と環境： 一本谷遺跡は、本町北部の大字堤地区の二塚山丘陵から国道34号線以南の本町中部の大字坊所字一本谷付近へ延びる井手口丘陵上に広がる縄文時代から古墳時代に及ぶ集落および墳墓遺跡である。

調査対象区域は、この井手口丘陵の中央部、標高25m付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 21 一本谷遺跡(1) (1/5,000)



PL. 18 調査地全景

H 28-15

遺跡名：三上遺跡(5)

調査地：上峰町大字坊所字西峰2805番1・2806番1

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：954m²

調査面積：82m²

調査時期：平成28年8月31日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約8~16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は目達原丘陵の中央部、標高9m付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：ピット、土壌、溝跡等を検出した。

調査後措置：盛土保存をして工事実施



Fig. 22 三上遺跡(5) (1/5,000)

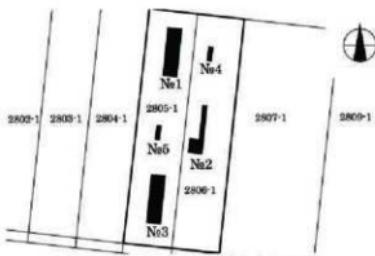


Fig. 23 トレンチ設定図 (1/1,000)

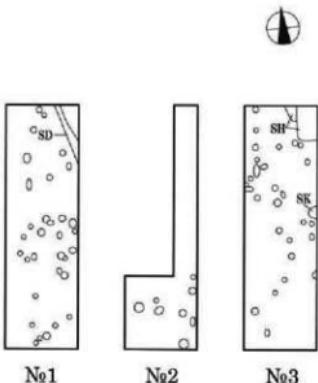


Fig. 24 トレンチ略図(1/200)

H 28-16

遺跡名：坊所三本松遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字三本松875番7・875番1

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：320m²

調査面積：15m²

調査時期：平成28年8月31日

立地と環境： 坊所三本松遺跡は、町中南部の上峰町大字坊所字三本松・西峰に所在し、現下坊所集落が立地する坊所丘陵南部および西方の目連原丘陵東辺部に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は坊所丘陵の中央部、標高7m付近に位置しており、これまで塗として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



PL. 19 調査地全景



PL. 20 №1試掘溝



Fig. 25 坊所三本松遺跡(1) (1/5,000)



PL. 21 調査地全景

H 28-17

遺跡名：米多城跡(3)

調査地：上峰町大字前半田字越井鶴659番1

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：338m²

調査面積：14m²

調査時期：平成28年9月16日

立地と環境： 米多城跡は、吉野ヶ里町目達原付近か

ら本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵
南端が沖積地に設する下米多・寺家一・
寺家二集落一帯の標高約4m付近に所在
する中世の城館跡である。

調査対象区域は現寺家一集落内の沖積
地標高3.8m付近に位置しており、宅地
として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 26 米多城跡(3) (1/5,000)



PL. 22 調査地全景

H 28-18

遺跡名：坊所三本松遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字三本松875番6

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：250m²

調査面積：12m²

調査時期：平成28年10月26日

立地と環境： 坊所三本松遺跡は、町中南部の上峰町

大字坊所字三本松・西峰に所在し、現下
坊所集落が立地する坊所丘陵南部および
西方の目達原丘陵東辺部に位置する弥生
時代から中世に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は坊所丘陵の中央部、標
高7m付近に位置しており、これまで畑
として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施

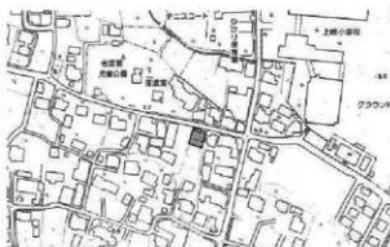


Fig. 27 坊所三本松遺跡(2) (1/5,000)



PL. 23 調査地全景

H 28-19

遺跡名：四本谷遺跡(2)

調査地：上峰町大字堤字四本谷1903番286

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：412m²

調査面積：14m²

調査時期：平成28年10月31日

立地と環境： 四本谷遺跡は、本町中北部、現切通集

落西方、二塚山丘陵の南部、標高 20m～

38m 付近に位置する弥生時代の墳墓遺
跡である。

調査対象区域は井手口丘陵の北部、標
高 25m 付近に位置しており、これまで空
き地となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施

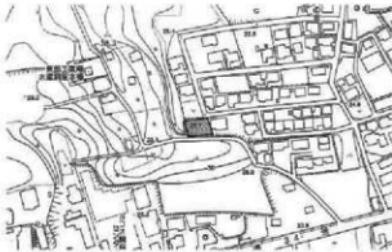


Fig. 28 四本谷遺跡(2) (1/5,000)



PL. 24 調査地全景

H 28-20

遺跡名：坊所二本松遺跡

調査地：上峰町大字坊所字二本松334番2 他2筆

工事内容：埋蔵文化財の有無確認

工事面積：515m²

調査面積：53m²

調査時期：平成28年11月1日

立地と環境： 坊所二本松遺跡は、上峰町の中南部の

坊所丘陵の南部下坊所丘陵南端からさら
に南東に延びる一支丘の標高 6m～8m
付近に位置している。

調査対象区域は下坊所丘陵の標高 5m
付近に位置し、これまで空地となってい
た。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 29 坊所二本松遺跡 (1/5,000)



PL. 25 №1試掘溝

H 28-21

遺跡名：坊所五本谷遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字五本谷1830番3

工事内容：建売住宅建設工事

工事面積：502m²

調査面積：24m²

調査時期：平成28年11月20日

立地と環境： 坊所五本谷遺跡は本町郡境集落付近か

ら下津毛集落付近へ延びる下津毛丘陵の南部、標高約7~16m付近に広がる弥生、古墳時代の集落および墳墓遺跡である。

調査対象区域はこの下津毛丘陵の中部、標高13m付近に位置しており、これまで空き地であった。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 30 坊所五本谷遺跡(2) (1/5,000)



PL. 26 調査地全景

H 28-22

遺跡名：周知外東前牟田地区

調査地：上峰町大字前牟田字東前牟田201番1

工事内容：駐車場用地造成工事

工事面積：527m²

調査面積：14m²

調査時期：平成28年11月20日

立地と環境： 調査対象区域は東前牟田の標高4m付近に位置し、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 31 周知外東前牟田地区 (1/5,000)



PL. 27 調査地全景

H 28-23

遺跡名：西峰遺跡

調査地：上峰町大字坊所字西峰2867番

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：381m²

調査面積：40m²

調査時期：平成29年1月10日

立地と環境： 西峰遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の南部、標高約8~9m付近に広がる弥生時代から古墳時代に及ぶ集落・墳墓遺跡である。

調査対象区域は目達原丘陵の南部、標高8m付近に位置しており、これまで更地となっていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 32 西峰遺跡 (1/5,000)



PL. 28 No.1試掘溝

H 28-24

遺跡名：三上遺跡(6)

調査地：上峰町大字坊所字三上3048番1

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：258m²

調査面積：26m²

調査時期：平成29年1月31日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約8~16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は目達原丘陵の中央部、標高14m付近に位置しており、これまで空き地になっていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 33 三上遺跡(6) (1/5,000)



PL. 29 No.2試掘溝

H 28-25

遺跡名：三上遺跡(7)

調査地：上峰町大字坊所字西峰2962番14

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：456m²

調査面積：12m²

調査時期：平成29年2月7日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約8~16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は目達原丘陵の中央部、標高14m付近に位置しており、これまで空き地になっていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 34 三上遺跡(7) (1/5,000)



PL. 30 調査地全景

H 28-26

遺跡名：切通遺跡

調査地：上峰町大字堤字四本谷1903番194

工事内容：建売住宅建設工事

工事面積：241m²

調査面積：12m²

調査時期：平成29年3月1日

立地と環境： 切通遺跡は町中北部の上峰町大字堤字四本谷に所在し、二塚山丘陵状に位置する弥生時代の甕棺墓群を主体とする墳墓遺跡である。

調査対象区域は二塚山丘陵の北部、標高22m付近に位置しており、これまで空き地となっていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施

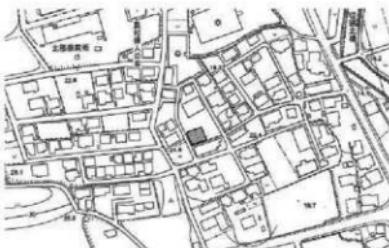


Fig. 35 切通遺跡 (1/5,000)



PL. 31 調査地全景

H 28-27

遺跡名：三上遺跡(8)

調査地：上峰町大字坊所字三上3214番1 他4筆

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：2,826m²

調查面積：320畝

調査時期：平成29年3月14日・15日・16日・17日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目連原付近か

ら本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約8~16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は目達原丘陵の中央部、標高16m付近に位置しており、これまで空き地になっていた。

遺構と遺物： No.9 試掘溝を除き、全面でピット・土塊・溝跡等を確認した。

調查後措置・工具立案

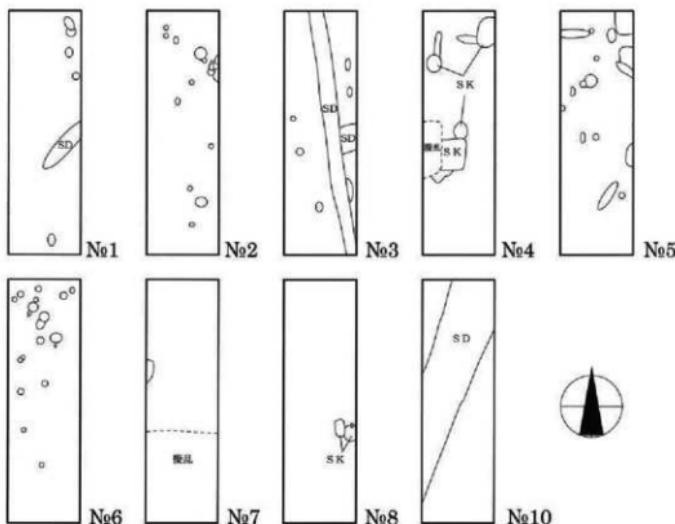


Fig. 38 トレンチ略図(1/200)



Fig. 36 三上遺跡(8) (1/5,000)

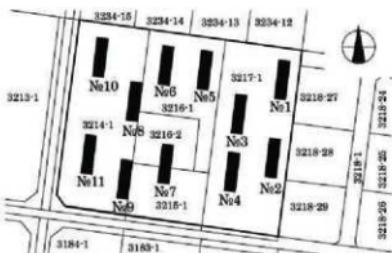


Fig. 37 トレンチ設定図 (1/1,200)



PL. 32 調査地全景



PL. 33 №3試掘溝



PL. 34 №10試掘溝



PL. 35 №10試掘溝断面

H 28-28

遺跡名：坊所三本松遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字三本松875番8

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：231m²

調査面積：13m²

調査時期：平成29年3月24日

立地と環境： 坊所三本松遺跡は、町中南部の上峰町

大字坊所字三本松・西峰に所在し、現下
坊所集落が立地する坊所丘陵南部および
西方の目連原丘陵東部に位置する弥生
時代から中世に及ぶ集落遺跡である。

調査対象区域は坊所丘陵の中央部、標
高7m付近に位置しており、これまで烟
として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 39 坊所三本松遺跡(3) (1:5,000)



PL. 36 №1試掘溝

報告書抄録

ふりがな	かみみねちょうないいせきかくにんちょうさIX							
書名	上峰町内遺跡確認調査IX							
副書名	上峰町内における開発行為に伴う埋蔵文化財確認調査報告書 ——平成28年度—							
巻次								
シリーズ名	上峰町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第46集							
編著者名	伊達 有彩							
編集機関	上峰町教育委員会							
所在地	佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4 上峰町民センター内 Tel 0952-52-3833/Fax 0952-52-3888							
発行年月日	2018年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積m ²	調査原因
上峰町内遺跡	佐賀県三養基郡 上峰町一円	市町村	遺跡番号	○○○	○○○	2016.4. ～ 2017.3		町内における各種開発行為
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
町内遺跡	古墳 集落跡 城館跡	弥生 古墳 奈良・平安 中世 近世 近代	ピット・溝跡・土壙等		弥生土器・須恵器・土師器・ 中世陶磁器・中世土器・近世 陶磁器・近代陶磁器			

上峰町内遺跡確認調査IX

平成30年 3月12日 印 刷

平成30年 3月31日 発 行

編集
発行 上峰町教育委員会

佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4

印刷 大同印刷株式会社

佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20



